

ふれあいひろば

発行日 平成27年1月

新潟市民病院 広報広聴委員会

患者とともにある全人的医療

第129号



『院長 年頭のあいさつ』

新潟市民病院を上手にご利用ください



明けましておめでとうございます。昨年は12月初めの大雪、ホワイトクリスマスと雪の多い年末年始でしたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。インフルエンザ対策は大丈夫ですか？

院長 片柳 憲雄 病院は医療の質を確保することにより、患者さんに安心して治療していただくかなければなりません。ホームページに、自信をもって当院の医療の質の指標(QI)を載せてあります。全国平均との比較もできるようにしてありますのでご覧ください。

一種感染症病床を持つ県内唯一の病院として、万が一の「エボラ出血熱」対策も感染制御チーム(Infection Control Team; ICT)を中心に、病院職員が一丸となって怠りなく行っていますのでご安心ください。

「赤ちゃんにやさしい病院」に認定されて1年経ちました。総合周産期母子医療センターでお母さん、赤ちゃんに対する救急医療をしながらも、自信をもって「母乳育児」に取り組んでいます。今後は「赤ちゃんにやさしい育児支援」の輪を市内、県内の病院に広める働きかけをしていきます、病院としてもこれを支援します。

「患者さんにやさしいおなかを切らない手術」は当院の最も得意とするところです。手術支援ロボット・ダヴィンチも順調に稼働し、安全で質の高いがん治療を提供しています。保険適応は前立腺がんに対する「前立腺全摘術」だ

けですが、胃がん・直腸がんの手術でも行っていますので、ご希望があればご相談ください。

11月からは高機能な放射線治療装置を導入します。がん治療に貢献できますが、操作に慣れるまで、お時間をいただきます。

南棟の精神科病棟での入院治療も開始して1年余りになりました。①他院の精神科で治療中であり、同時に治療が必要な身体合併症(がん、腹膜炎、肺炎、外傷など)を持っている患者さん、②救命救急センターに搬送された自殺企図の患者さんに入院していただいています。病児保育室「リトルスワン」も順調に軌道に乗っています。

4月からは外来で、患者さんがいろいろな相談ができる患者総合支援センター“スワンプラザ”(入院支援、退院支援、がん相談支援センター、緩和ケアセンターなどを併せ持つ)の運用を開始しますので、ご利用ください。

新潟市民病院はこれからも「患者とともにある全人的医療」を理念として、重症・専門・救急医療を中心に「患者さんに信頼されるぬくもりのある医療」を目指していきます。地域医療支援病院としては、かかりつけの先生を持ち、紹介状持参での診療をお勧めします。市民病院を上手にご利用くださいますよう、お願いします。



『発熱10か条』

救命科 吉田 暁

12月に発熱についての講演をさせていただき「発熱10箇条」と題して、10個のメッセージをお伝えしました。

1) どんな病気で発熱するか知っておこう

感染症、膠原病、悪性腫瘍などが代表的な原因とされますが、それら以外にも多数あります。なかでも感染症の頻度が多いとされ、その多くは風邪です。感染症のなかには、髄膜炎など緊急性が高い病気も含まれます。

2) 咳、鼻水、咽頭痛 3つ揃えば風邪の可能性が高い

これら3つの症状があれば典型的な風邪である可能性が高くなります。逆にこれらの症状が全くなく発熱のみの場合は風邪とは言い切れません。

3) 風邪には抗菌薬はいらない!?

風邪の原因のほとんどはウイルスによるものです。抗菌薬は細菌を倒すことができますが、ウイルスには全く効きません。

4) 風邪とはちょっと違うなという感覚を大事にする

「発熱＝風邪」と思われがちです。しかし風邪にしては症状がおかしいなという感覚を持ち病院を受診することで、風邪以外の病気を早期に見つけることができるかもしれません。

5) リスクが高い人は早めに受診を

新生児、乳児、高齢者、また免疫が弱い方は細菌感染にかかりやすく、重篤化しやすいことがあるため、注意が必要です。

6) 全身状態が悪い人は早めに受診を

ぐったりしている、水分すらとれない、意識が悪い、呼吸が早い、家族からみて明らかにおかしいなどの異変があれば重篤な疾患が隠れている可能性があります。

7) 発熱、+αの症状が強いつきは、早めに受診を

強い症状を伴う場合は重篤な疾患が隠れている可能性があります。例えば、喉が非常に痛いときは溶連菌性扁桃炎や喉頭蓋炎、ひどい頭痛は髄膜炎、汚い痰や強い咳は肺炎、悪寒戦慄（ふるふる震えること）を伴う発熱は菌血症（菌が血液をめぐっている状態）などの可能性があります。

8) 発熱が続くときは軽くても一度受診を

典型的には風邪であれば3-5日程度で解熱することが多いといわれます。さらに長い期間発熱が持続している場合は、もしかしたら「風邪ではない病気」が隠れている場合もあるため一度受診を検討してもよいと思います。

9) 医者でも発熱は難しい、点ではなく線でとらえよう

一度の受診では診断が確定できないこともあります。受診後さらに具合が悪くなるようなことがあれば風邪と最初診断された場合でももう一度相談が必要かもしれません。

10) かかりつけ医との関係を良好にしよう

近くにかかりつけの医師がいると普段の状態との比較をしてもらえます。ぜひ良好な関係を築いていただけたらと思います。



以上参考にしていただければ何よりです。

『冬の感染症』

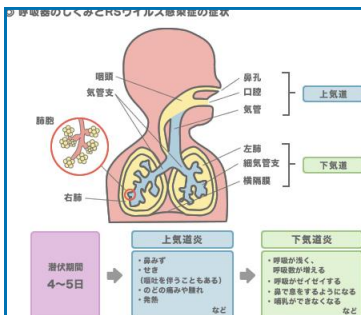
小児科 松井 亨

今回は、冬の感染症の代表的疾患をご紹介します。

まずは、成人も小児も共通の関心事である、インフルエンザです。今シーズン、全国的には1月18日の時点で流行のピークを迎えたようです。発熱を伴う上気道炎が大多数の臨床像ですが、ときに気管支炎や肺炎などの下気道炎を発症します。また、小児では脳炎・脳症といった中枢神経症状を起こしてくる場合があります。今年の流行株はA香港型で、高齢者での重症化の報道が散見されます。



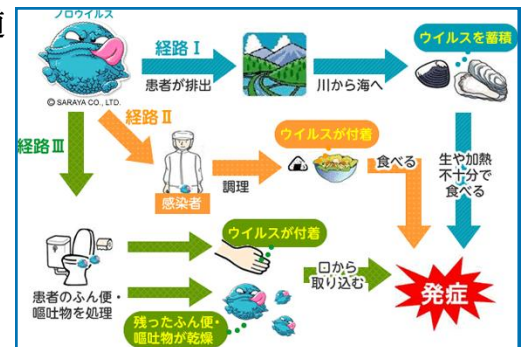
次に、小児、特に乳幼児で問題となるRSウイルス感染症です。年長児、成人では、気道分泌物の多い、しつこい“風邪”として扱われることが多いですが、乳幼児では細気管支炎（気管支の末端部分の炎症）という臨床像をとり、まれに人工呼吸器管理が必要になるお子さんもいます。今シーズンは、例年にない流行年となりました。



最後に、感染性胃腸炎の原因となるノロウイルス感染症です。冬季に問題になりやすいですが、実は通年性に見られます。食中毒として報道

される病原体です。嘔吐、下痢、軽度の発熱を来し、軽症で経過することが多いですが、高齢者、年少児で入院に至るケースもあります。

最後に、感染症関連の情報があふれる現代ですが、ご紹介した感染症に限らず、感染症流行時には、必要以上に揺動することなく、冷静に対応するようお願いいたします。



『正面玄関前駐車スペースの利用に関してのお願い』

管理課

市民病院は歩行困難な方が多く通院していますので、正面玄関前は「歩行困難な方や人工呼吸器などを付けていて、常に目が離せない患者さん」に、より優先的に使っていただきたいと思ひます。そこで駐車スペースには「歩行困難者優先」と表示し、院内にはポスターを掲示しました。

運転してくださる方がおられる場合は、乗降は正面玄関前で行い、駐車は一般駐車場に移動するなど、ご協力をお願いいたします。具合が悪くて歩けそうもない時に正面玄関前が空いていない場合は、警備員にお声掛け下さい。

(院内の掲示)



(正面車イスマーク駐車スペース)



『病院でノロウイルス感染を広げないために』

感染管理看護師 大崎 角栄

冬になるといろいろな感染症が流行します。特にインフルエンザとノロウイルス感染は、例年大流行を起こします。こういった感染症に罹った患者さんが集まる病院にとって、このウイルス感染がほかの患者さんにうつらないように、最大限の対策を行わなくてはなりません。

そんな重要な対策のひとつに、吐物の処理対応があります。ノロウイルスで胃腸炎を起こしている場合、強い嘔吐と下痢症状が起こります。下痢便や嘔吐物の中には、莫大な数のノロウイルスが排出されるといわれます。症状が強い場合、不測意に環境中に嘔吐してしまう場合も多く、その嘔吐の不適切な処理が感染を広げる大きな原因となる為、徹底した対応が重要とされています。

当院では、そういった場合にも職員が速やかにしっかり対応することができるように、実演を交えた吐物処理研修を実施しました。写真は12月18日

に行った薬剤師、リハビリ職員を対象にして行った研修の風景です。

参加したスタッフからは「理論だけではわからないことが理解できた」「物品に触れておく事でいざという時にあわてないで済む」などの意見が聞かれました。

病気を治すための病院で、他の病気がうつってしまう事がないように日ごろから十分に備えておく必要があります。

当院では、すこしでも患者さんに不利益が起きないように日ごろからしっかりとした備えを重要として考え、活動しています。



登録医の紹介

病院名 : クララクリニック 院長：八木澤久美子
診療科 : 内科一般、検診、人間ドック、訪問診療、各種予防接種

所在地 : 〒950-2002 新潟市西区青山7-3-20-3

電話 : 025-232-4134

診療時間 : 月～水・金 9:00～12:00、15:00～18:00
土 9:00～12:00

*早朝、昼休みの時間を利用して検査、訪問を行っています。

休診日 : 木曜日、日曜祭日、土曜午後

自院の特徴と診療方針：

一般内科診察、特定検診、がん検診、訪問診療をおこなっております。健康にかかわることなら何でもご相談にのっております。よろしくお願いたします。



病院名 : 小児科廣川医院 院長：廣川 徹
所在地 : 〒950-0837 新潟市東区若葉町1-20-8
電話 : 025-383-8839
診療時間 : 月～水・金 9:00～11:30、14:30～18:00
木・土 9:00～11:30
休診日 : 日曜・祝日

編集後記

空気が乾燥すると、インフルエンザにかかりやすくなります。

室内では、加湿器などを使って適切な湿度を保つと良いと思います。

(M.W.)